（様式１）

令和２年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立立花吾嬬の森小学校
校長名	向井一郎

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から（平均正答率は、別表参照）

成　　果	課　　題
・全学年において、平均正答率は前年度の結果よりも向上している。特に第６学年においては、全観点で全国平均値を上回っている。 ・今年度初めて調査を行った第２学年も、教科としての国語、算数の平均正答率は 81.2％と 80.5％であり、ともに８割を超えている。 ・前年度からの学年別の推移を通してみると、全学年において、2 ポイント以上上がっている。特に第 6 学年の算数（47.4％→53.3％）理科（46.5％→52.2％）と 5 ポイント以上上昇している。	・全教科を通して、平均正答率は上がっているが、全国の平均正答率が低い理科においては、本校も正答率が 6 割から 7 割であり、理科についての学習のさらなる改善が必要である。特に「自然事象への関心・意欲・態度」については、第 4，5 学年は 5 割程度である。自然についての関心を高めることを大事にする。 ・第 2 学年については、算数の「数学的な考え方」のポイントが 6 割程度である。日常の学習の中でさらに考える場面や時間を多く設ける。 ・文章や情報を読み取る力は、前年度よりも向上している。これまで行っている授業改善、朝学習への取り組みなどを継続していく。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・「立吾しぐさ」についての意識が高まり、全学年を通して、規範意識が平均値を超えている。また、いじめのサインを見逃さないという意識も高く、「思いやりの心」が育っていることが読み取れる。 ・高学年になるに従って、「他者からの評価」の平均値が高まっている。「自己肯定感」の高まりが読み取れる。	・どの学級においても、「学級の絆」は平均値を超えているが、そこに安心するのではなく、さらに学級、学年と、絆が強くなっていくことを目指したい。 ・低学年では、まだ「生活習慣」が完全には確立していなかった。家庭との連携を強化し、児童の自立を促していく。 ・新型コロナウイルス感染症予防を行いつつ、児童の「感動体験」が多く得られる工夫もしていく。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・授業の中で児童が考える場面を設け、それをもって対話を進めることを行うようにしている。感染症予防のために、教師を介した「対話」が中心だが、授業改善は確実に進んでいる。	・学習のまとめの中で、自分の考えを表現できる児童が増えている。今後は各自が専用の ICT 機器類を用いて表現することのできる児童を育てていくことも進める。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）基礎・基本の定着

- 教師が「板書計画」を立て、児童が読み返した時に「復習」することのできるノート作りを進めている。そこに、児童の考え、感想なども記すことを、学校全体で共通して実施している。
- 「話す活動」を授業場面、学級活動場面、さらに学校生活日常場面で増やしている。
- 「読書活動」の充実を図り、学校図書館の整備、蔵書の充実を進める。特に、調べ学習に適した書物を重点的に増やす。「図書館を使った調べ学習」にも取り組むように支援をする。
- 「朝学習」の時間に、目的を持って活動することができるように、「読み取り学習」に効果が上がるドリルを選び取り組んでいる。
- 「国語辞典」を使用し始めた３年生からは、国語以外でも、わからない言葉に関心を向けるようにし、児童の「語彙」が増えるようにしている。

（２）学んだ内容の定着

- 授業においては、「めあて」をはっきりさせて 1 時間の中で何をつかんでいくのかを明確にする。そのために「週案」はもちろん、「板書計画」を綿密に立てていく。各教員の授業観察を定期的に行い、その管理は、管理職が確実に行う。
- 1 時間の授業の中で、つかむ場面、調べた考える場面、友達と交流をする場面、そして、考えを深める場面を用意し、単調で教師主導型の授業にならないようにする。特に問題をつかむ場面では、ICT 機器類も効果的に利用し、児童の意欲が高まるように工夫する。
- 「生活リズムチェックカード」を利用し、家庭との連携を図り、学校で学んだことが家庭学習でも生かすことができるようにする。単なる宿題ではなく、翌日の授業の中で生かすことのできる家庭学習になることを目指す。
- 東京ベーシック・ドリルを効果的に活用し、学習を進めるときに、土台となる前学習を振り返ることができるようにする。（振り返りシートの効果的な活用）
- 単元が終わる前には、全体を振り返る時間を設ける。また、テストなどを行った場合にも、答え合わせ、間違い直しなどを確実に行うようにする。
- 児童の学習を評価する際には、指導目標に到達しているのかどうかを､個々の児童に対して３観点で見ていくようにする。評価の基準は学年で統一する。

（３）主体的・対話的で深い学びの実現

- 問題解決型の学習を進めるようにし、児童に提示する教材、資料などの工夫をする。
- 「立吾しぐさ」の徹底、特に「聞き目・聞き耳」を重点とし、相手を意識して話し、相手の話の内容を理解しながら聞くようにさせる。聞き返すことの大切さも伝えていく。
- 校内研究で進めている「心も体も元気な児童の育成」を軸として、児童の生活習慣が安定する中で、学習に集中できるように、家庭との連携を強化する。

３　「令和３年度　墨田区学習状況調査」における目標

・つまずきのある児童への支援を強化する。D 層に属する児童の割合は、学校全体で２割ほどいることが判明した。個別指導などを強化し、C,B 層に上がっていくことができるようにする。

・理科において実際に観察したり、実験したりする場面を増やし、「関心・意欲・態度」を高める。